

研究發表

幼兒人物畫の發達

神戸幼稚園保姆

松永とき子君

(一) 目的

一、此研究は私共の園兒に一月に一回づゝ描かせて居ります人物畫に依つて、年齢の上から幼兒の精神の發達を見たいと思つて致しましたもので御ざいます。

(二) 實驗の方法

一、毎月一回全園兒に「人をお書きなさい」と言ふ命令のもとに畫かしたものであります。

(但し八月は夏期休暇の爲描きませんでした)

一、全園兒一齊に各組の部屋で描かせました。

一、時間は朝の初めに致しました。

一、用具は、八切畫用紙とクレオンを用ひました。

一、描き終つた者はそれを保母に渡し畫いた人物について色々な説明を致しました。保母はそれを記入いたしました。が表現の理解出来ぬものは尋ね、それについて答へたものは記入し答へなかつたものは仕方なく意味不明といたしました。

(三) 研究の材料

一、以上の方法で致して居ります物の中から最近のものを選びました。

一、澤山にある材料の内から特に缺席の少ない各月に渡つて發達の見られる様なを選びました。

一、その上に出來るだけ長く繼續してゐる物を見たいと思ひましたので本年四月に小學校へ参りました者の中で大正十三年四月に入園して大正十五年三月に修了した、二ケ年間在園者を選びました。

一、男兒十四人 女兒十五人

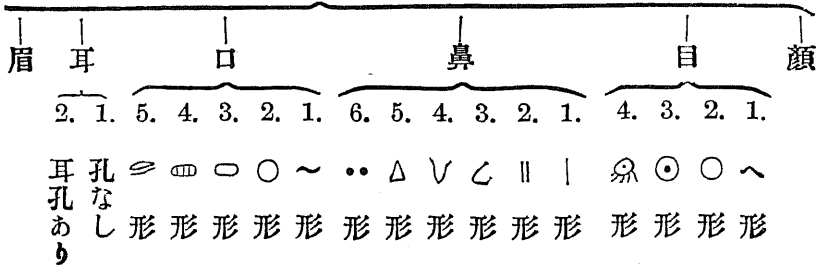
一、枚數 凡六百枚

一、年齢 四年四ヶ月より六年八ヶ月迄

(四) 研究の方法

どの子供の繪を見ましても細い部分に發達の跡が見られますので各部分の一つ一つを調べて見たくなり先づ之を頭の部。胴の部。手の部。足の部。の四つの部分に分けて更に各部分を細かく次の様に分けて其發達の段階を調べました。

頭の部



胸の部

| | | | | |
|----|-----|----|----|-----|
| 衣服 | 胸の部 | | | |
| | 陰部 | 臍 | 乳 | 胸の形 |
| | 4. | 3. | 2. | 1. |
| | 二 | 一 | 無 | 無 |
| | 色 | 色 | 色 | 衣 |

| | | | |
|----|----|----|----|
| 4. | 3. | 2. | 1. |
| ○ | ○ | □ | △ |
| 形 | 形 | 形 | 形 |

| | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|----|----|----|----|----|
| 首(頭と胸とを接続するものでも便宜上此部に入れました) | リボン 其他髪飾り | 髪 | | | | |
| | | 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| | | ♾ | ● | ● | ㄣ | ○ |
| | | 形 | 形 | 形 | 形 | なし |

(毛の不完全なる形)

5. 模様あるもの

ボタン
バンド
ネクタイ
衿
ポケット

手の部

- 1 |
- 2 木
- 3 木
- 4 〇
- 5 点
- 6 V
- 7 ㇿ
- 8 ㇿ
- 9 ㇿ
- 10 ㇿ
- 11 ㇿ
- 12 ㇿ
- 13 ㇿ

足の部

- 1 |
- 2 木
- 3 木
- 4 〇
- 5 点
- 6 0
- 7 ㇿ
- 8 U
- 9 ㇿ
- 10 ㇿ
- 11 ㇿ
- 12 ㇿ

以上の四つの部分を調べて行くうちに全體の内容の發達の爲に各部分の發達はかへつて後もどきしてゐると言ふ様なのが澤山ありましたのでこれも調べてみたいと思ひ動作として調べてみましたがこの名前はあまり適當でない様に思ひますが、他に適當な名が考へられなかつたものですからそのままにして置きました。

動作

| | | | | |
|----------|-----|-----|----|----|
| 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| 二人以上の人と物 | 人と物 | 人と人 | 一人 | 不明 |

一、まづ一人々々のカードを五枚、五つの部分に別けて方眼紙で作りました。

一、上には年齢横には種類を書きまして一人の子供のどの部のどの種類のに屬してゐるかを印して参りました。

一、之に依つて出て來ました各部の一人々々の發達を年齢に依つて合計いたしました。

一、合計したものゝ百分比を出してみましたのが非常に種類が多い爲に複雑になつて参りましたので之をまた線でもつて高さに表してみました。

(五) 研究の結果

A 頭の部、

一、顔

顔は男兒は全部描いて居りましたが女兒に一人だけ四年六ヶ月に描かなかつた者がありました。

しかしこの子供は前の二ヶ月共顔を描いて居りますから描き得ないのではないと思ひます。

二、目（第九表参照）

目を描き得なかつた者は極少數で女兒は四年十ヶ月男兒は四年十一ヶ月まで、其後には一人もありません、しかし後向などで描かなかつた者も少しありましたがそれは前後を見て前に描いておれば描き得るものとして前の月と同じ部に入れました。

1. へ形の目、この形の目を描いたものは少ししかありませんでしたが年齢の多くなつてゐる者でこの目を描へてゐる者は重に人物を少さく描いてゐる爲の様で御ざいます。

2. O形、この形の目は男女とも最も多く描いて居りました。

3. ◎形、この眼球の入つてゐる目は年齢に依つていくらか多くなつて來て居りますことに女子は其發達が明かであります。

この目を續けて描いてゐる子供でも人物を小さく描いた時には 2 又は 1 の形の目を描いて居ります。

三、鼻（第二表参照）

鼻を描く事の出来なかつた者は男、五、年女、四年十一月、これは最もおくれた子供の年齢でこれ以後描く事の出来なかつた者はありません、が鼻も目と同じく他の部分に力を入れた爲に忘れたと言ふ様にもられるのもありました。

1. | 形、 この鼻は年齢の進むに従つて少なくなつて参ります。
2. || 形、 この形は極小數で一より三への發達の階段とはみられない様で御ざいます。
3. < 形、 これは最も多く大部分の子供は一の形からこの形に發達して來て居ります。
4. √ 形、 この形は2の形よりも多くまた進んだ形とみる事が出來ると思ひます。
5. △ 形
6. ● 形

この二種は極少しかありませんでした。

四、口（第八表参照）

口を描き得なかつたものは男五年女五年一ヶ月まで、其後は一人もありません之も目鼻等と同じく途中で描かなかつたものもありました。

1. 一形 最初より最後まで是も多く描いて居り繪として發達してゐてもこの口を描いてゐるものが多う御ざいました。

2. ○ 形 この丸い口は男兒には割合に少なく女兒にはどの口よりも多く描いて居りました。

3. □ 形 この形は2の形と反對に女兒に少なく男兒に多くみられます。

4. ◉ 形 この形は女兒には一人もなく男兒に二人ありましたが其内の一人は途中で一度だけ描いて居り

他の一人は最後の月にこれを描いて居りました。

女兒は○形多く男兒は□形がどう御ざいました。

五、耳（第七表參照）

耳を描いたものは年齢に依つて表れませんでしたした年齢の進むにつれて髪、帽子等を描くので耳を描かないのかもしれない。

耳孔を描いてゐるのも發達として現れませんでした或は特に細かく注意する子供が描いたのではないかと思ひます。

六、眉（第五表參照）

眉は男女とも非常に多く描き最後には100%になるほどであります。

最もおそくまで書き得なかつた者は、男兒五年一ヶ月、女兒六年でありますが女兒の六年はたゞ一人だけですから五牟二ヶ月と見た方がよいかと思ひます。

七、髪

男兒はあまり描かず女兒の方は其發達が著しく表れて居ります。

1. ○形 毛のないものも女兒は五年九ヶ月まで、十ヶ月からは皆毛を描いて居ります。

男兒も毛を描き初めるの、一番おそいのが五年十ヶ月であります其後も一度描いても描かないのが譯山ありました。

2. ヲ形 毛を一本一本に書き表したものを。

これは毛を描く初めに出て参りますもので極少数しかありませんでした。

3. ◎形 不完全な形は年齢の中頃に最も多く4に進む階段と見る事が出来ます。

4. ●形 とゝのつた形

この形は年齢の進むにしたがつて多くなつて参ります、子供の髪の色を描いたものとしてよく出てゐると思ひます。

5. ♡形 前髪ピン等を分けた形

この形を描くものは五年六ヶ月から現れて年齢の進むにつれて多くなつて参ります。

帽子、帽子を描き初めるのは男は五年女は五年四ヶ月と表れて居ります。

男児は髪を描かない代りとして早くより帽子を描く様で御ざいます。

リボン其他髪飾り

之等を描くのは女兒に多く男児にはあまりありませんが男児で女性を描いたものに極少数ありました。

女兒の方では四年十一ヶ月頃から描き初めて年齢につれて増して行く様で御ざいます。

八、首 (第六表参照)

男兒の首を描いた者は少なく發達の經路と見る事が出来ませんでした。が女兒はよほど年齢に比例してゐる様で御ざいます。

九、鬚

之を描いた者は男に一人しかも一度だけ描いて居りました。

女兒
五年五ヶ月一人
五年六ヶ月一人

B 胸の部 (第十表參照)

一、胸の形

胸を描く事の最もおくれたるもの(描き得なかつた者)

男 五年六ヶ月

女 五月五ヶ月

でそれより後は皆描いて居ります。

1. □形 最初に描く胸は殆んど此形で圖の示す通り年月の進むに従つて少なくなつて參ります。

(男兒の六年八ヶ月は、藤波がこの月だけ□形を描いてゐる爲)

2. △形 大抵の子供は形よりこの形に進んで參ります。

3. ○形 これは少數しかありませんでしたが□形からこの形に進んで参りました者がありました。

4. ○形 肩の丸味をつけて来た最も進んだ形として取りました。

男児には此形に進んだ者は小數(三人)に過ぎませんでした。が女子の方は圖の如く進んで参りました。

胴の形



この様な順になつて居り男児は多く△形に止り女兒は○形に進んだものが多う御ざいました。

一、乳 男、五年一ヶ月……六年の間に七回

女、五年一ヶ月……六年二ヶ月の間に二回

之だけしか描いて居りませんので發達を見る事は出来ませんでした。

一、臍 男、四年七ヶ月……六月まで

女、四年七ヶ月……六年二ヶ月

臍は乳よりも早く出て數も乳よりもよほど多くみられました。

一、陰部、男 四年十ヶ月 一回 (井口 義雄)

女 四年八ヶ月—一〇月三回 (柴田千鶴子)

臍と乳とは或年間の間だけ現れ臍は乳よりも多く描き年齢も少し早くより描き初め年齢進むにつ

れて描かなくなつて居ります。

一、衣服

1. 無衣、裸にて着物を描いてゐないもの、

男 五年七ヶ月

女 五年八ヶ月

までには描かなかつたものがありました。

2. 彩色なきもの

色を用ひないで衣服の形を表したもの又はボタン等を描いては、四年五ヶ月から五年九ヶ月に表れ居りますが極少しであります。

3. 一色

一色をぬりて衣服を表したもの、

これは四年八ヶ月から六年三ヶ月の間に表れ彩色のないものよりも多う御ざいました。

4. 二色以上

二色以上を用ひてゐるけれども島とか模様を表してゐないもの 四年九ヶ月——六年八ヶ月に表れて3よりも多く描いて居ります。

5. 模様あるもの

縞とか模様とかを明かに表したものは五年六ヶ月——六年八ヶ月に表れ年齢の進むに従つて多くなつて居ります。

男兒には此發達がありません。

ボタン 衣服の附屬品の中で多く描いて居ります。四年十月頃から描き初めて年齢の進むにつれて多く描いて居ります。

男兒には衣服の模様等の發達がみられないけれどもボタンは女兒よりも多く描いて居ります。

バンド ボタンの次に多く五年二ヶ月から描き初めて居ります、之は女兒の方が多く描いて居りました
ボケット バンドより早く描き初め割合に多く描いて居ります。

ネクタイ

等をも極小數描いて居りました。

袴

すなわち衣服に色を用ふるのは四年八ヶ月以後衣服の附屬品は五年以後に初めて現れてまゐります、衣服と髪との發達は最も男女の差が著しう御ざいます。

C 手の部、(第二表参照)

手を描き得なかつた者の最も年齢の多いのは

男 五年五ヶ月

女 五年三ヶ月

1. 一形 男女とも最初に出て来るのはこの形であります。

2. 小形 一形からこの形に進んで参ります。

男児の方はこの形まで、其先へ進まなかつた者が多く、女兒の方は發達の段階として一形の次に表れ、また次に進んで行つた者が多う御ざいます。

3. 丛形 この形は男児には2の次に来るものとして割合に多くありましたが、女兒の方は圖に示す如く極少しかありませんでした。

4. 凸形 は男児には六年に一人、六年二ヶ月に一人ありましたが、きりですが、女兒には圖の様に六年七ヶ月に表れて居ります。

5. 丛形 は男児では五年十ヶ月から初まつて極少しですが、女兒は四年九ヶ月から初まつて圖の様に多く現れて居ります。

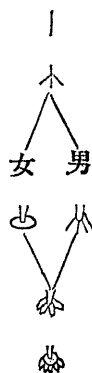
6. 丛形 この形も五の形の多く、男児は數も少なく、年月も三ヶ月後れて出て来て居ります。

カ O V W 丛 丛

これ等のものは一人々々の發達の段階として現れて居りますけれども全體としては數も少なくこれ

等の段階を飛び超へて進んでゐる様で御さいましたから全體としては省きました。

手の發達の順序



右の通りでありますが男子の方は、多う御さいましたこれなど男女の精神の發達の相違と見る事が出来様かと思ひます。

女兒の觀察は細やかで男兒は大きいとでも申しませうか。

D 足 (第一表參照)

男は五年一ヶ月 女は五年四ヶ月までには描く事の出来ない者もありましたがそれ以後は全人員が描いて居ります。

1. 一形 足も手と同じく第一に出て来るのはこの形で男兒には最も多く最後までこの形を描いてゐた者もありません。

2. 小形 男兒の方では一形の次に現れる者が多數ありましたが女兒の方ではこの形を飛び越へて〇又はリ形に進んでゐる者が多くこの形の足は稀れに見るのみでありました。

3. 〇形 この形は手の方ではあまりありませんでしたが足には割合に多くありました。

發達の程度は圖の様に女は早く出て少なくなり男はおそく出て多くなつてゐると言ふ相違があります。

4. U形 この形は30と同じく手には極少しでありましたが足には割合に多く表れて居ります。

5. 丛形 この形は手の時と同じく男兒に多く女兒は唯、圖に示す程に過ぎませんでした。

6. J形 この形は手には見られなかつた形で男女共に多く描いて居ります。

7. ㄷ形 この形は手と同じく女兒に多く男兒は極少しで丁度5丛と反對の現象であります。

年齢の上では6 Jよりも後に現れて來て居ります。

ㄷ J ㄷ ㄷ

これ等の形は極少數のでしたから省略しました。

足の發達の順序は

男 一 ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ



と言ふ様に男女に依つて發達の順序が違つて居ります。

手足がどこから出るかと言ふ事についてしらべまた處に依りますと、顔から出たのが四年以下には

ありましたが五年以上は皆正しく出て居りました。

E 孤立的より総合的内容へ(第四表参照)

一、不明 頭のみと言ふ様なもので一人とも言はれない様なもの、これは男女とも五年二ヶ月以後にはありませんでした。

二、一人 一人にて立つてゐるとか遊んでゐるとかしたもの、また他のものとの関係が現れないもの、之は男女とも年齢の進むにしたがつて少なくなつて來て居ります男兒の方が割合に多く一人だけのものを描いて居ります。

女子の方が早く發達するのでございませうか。

三、人と人

二人以上の人形を描いたもの

之も男兒の方が多く描いて居ります

これは各年に描いて居りますが女兒の六年五ヶ月以後は描いて居りません。

四、人と物

これは人、一人と家とか路とか空とか花とか言ふ背景を描いたものであります。

この背景を描く事は人二人以上を描く事よりいくらか後れて初まる様で御ございます。

五、人と人と物

二人以上の人と背景を描いたもの。

これは一番後れて初まり年齢の進むにしたがつて多くなつて居ります。

結論

此研究の結果に依つて考へてみますれば此時代の幼児の全部が描くに至ります年齢部分の順序は次の様であります。

1. 顔 四歳四ヶ月 四ヶ月以下の年齢がありませんがとにかく此年齢の幼児は全部描く事が出来ます。

2. 目 男 五、〇 年 月
女 四、一一

3. 鼻 男 五、一
女 五、〇

4. 口 男 五、一
女 五、二

5. 眉 男 五、三
女 五、三
女子に一人だけ六年と言ふのがありましたが之は例外とみる方が至當だらふと思ひます。

6. 足 男 五、二
女 五、五

7. 手 男 五、六
女 五、四

8. 胴 男 五、七
女 五、六

9. 衣服 男 五、七
女 五、八

右の様な順序になつて居ります、之から考へまして一人々々の發達の段階も凡そこの順序と同じでありませう、もしこの年齢に到達しても描き得ない子供は、普通の子供より遅れた子供と言はなければなり

ません。

此研究に依つて大いに得る所があつた二つの方面について考へてみたいと思へます。

一、幼兒の四歳頃はシンボルの時代で、物を附號で示す時代であります。

手足目鼻口等を—の形で表し胸の形を□で表すのは丁度この時代に相當いたします。

五歳頃 この頃より次第に實物を見たまゝに描き表せうとする時代に入つて參ります。

鼻の形髪の毛の●形等は丁度此時代に相當するかと思ひます。

六歳頃になりますとよほど技巧の方も發達して參りまして其形で描き表す事が出来る様になつて參ります。

眼球を入れるとか、足の∪形手の♁形衣服の模様などを表す等、一つ一つの部分を細かく觀察する事が出来る様になつて來るのであります。

二、他の一方面から考へますと

四歳 觀念がポツリ／＼と頭の中に浮かんでゐる孤立的の時代でありますから人を描けと申しますと

唯一人人と言ふものだけが頭の中に浮んで來るのみでありますから他の物とは何の關係もなく

人一人だけを描くのであります。

五歳 この頃から段々他の物と關係がついて來て二人の人を描く様になつたり、人と言へば何かこれ

に關係のある家とか路とか言ふものが頭の中に浮んで參りますので、たゞ人をお書きなさいと言つても一人だけの人を描かず二人とか、人と物とかを描く様になつて參ります。

六歳　これが六歳頃になりますと非常に總合的になつて參りまして、人と人との關係を描き、またそれと關係のある背景だとかいろいろの複雑な關係を描き出して參ります。之は物を組織的に考へる様になつて來たとも言ひ得ると思ひます。

之は前に申しました、一つ一つの部分を細かく觀察して描き出して來ると同じ精神の働きでこの働きが内に表れる時は、眼球を入れる様になるとか髪の毛を描く様になるとか衣服の模様附屬品等を描く様になると言ふ様に發達して參りますが、この働きが外に表れる時には人と人との關係人と物との關係人と人との關係と言ふ様に發達して參ります。

此二方面を教育的の立場から考へてみますと四歳頃の、觀念がポツリ／＼頭の中にある時代には物を附號で表し得るに過ぎませんから、しいて實物の様に描かせ様とつとめなくともよいと思ひます。大人が描いてみせると言ふ様な場合も符號で表す程度のものでよいと思ひます。之が次第に進んで參りまして五歳位になりますと實物を見るまゝに描き他の物との關係など、云ふ事が表れ初めて參りますから物を觀察すると言ふ事はこの時に初めなければなりません。即ち寫生を初める時期は此時でありますこれより其子供の發達の丁度に依つて重荷ならぬ様に適當に導いて行く事が我々保母の任務だと存じます。